



神奈川県立川崎図書館 が所蔵する  
全国有数の〈社史コレクション〉を  
さらに活用していただくため、  
社史の使い方や、社史の楽しさ、  
社史情報などをお届けしていきます。



2019/09

今年7月3日〜6日に開催した「社史フェア2019」では、2018年に刊行された社史230点を展示しました。社史フェアも6回目、高津区に移転してから2回目の開催となりました。会場では、来場された皆様に投票用紙を配布して、お気に入りの社史と、そのポイントをコメントとして記入していただきました。

その結果、66点の社史に、計206票が投じられました。今回は、デザインに特色のある上位3位の社史に、票が集中しました。今回の「社楽」では、投票結果をご紹介します。

なお、コメントは読みやすくするために原文の一部を整えたものもあります。

●  
1位は神戸で創業し、主に鉄道車両用のボルトを製造している兵庫ボルトの『TSUNAGU 100』でした。コメントには「シンプルでデザインながら、写真のダイナミックさ、文字量のバランスなど全体的に読みやすく、かっこよさがあった。会社で働く方々の活き活きとした様子や仕事にかけける情熱のようなものが冊子全体から伝わってきた。」「写真もおしゃれ！モノクロがいい効果を生んでいる。『つなぐ』というキーワードを軸に、ストーリーが展開、引き込

まれる思いがしました。」「今までの社史にないフォトブックのようなスタイリッシュな作り、演出がすばらしかった。固く感じないこれからの社史の基本のように感じました。」などの声がありました。

2位は沖縄県にあるビールメーカーの『FORION BEER BOOK おかげさまで60周年！1冊まるごとオリオンビール』。

「一見すると社史には見えない程スタイリッシュなところが気に入りました。ビールの持つイメージ、沖縄のイメージが『黄色』で表されていて印象に残りました。」

(2面につづく)

# 社史フェアコメント2019、コメント発表

「構成がとてもオシャレで、オリオンビールが愛され、楽しまれ、どんな場面でどんな人たちに飲まれているかが冒頭の写真から伝わります。あきることなく、つい全て読んでしまうようなつくりもステキだなと感じました。」「オリオンビールの歴史だけでなく、地域や地域の人々そして、くらしに根付いた独自の世界観をしつかり表現している所が素晴らしいです。」などのコメントがありました。「ビールを飲みたくなつた。」というコメントもたくさんいただきました。

3位は広島県の酒造メーカー・賀茂鶴酒造の『法人設立100周年記念誌』です。「1ページ目の『不易流行』が酒造りの100年の歴史を語っているように、インパクトがありました。」「酒造りの工程であるそれぞれの作業について文章と写真がマッチしていて、とても心に残りました。」「写真がわかりやすく、酒の『文化』や歴史が、よくわかる気がします。酒と生活、文化が、日本の社会の中で大変とけあっているという感じがしました。」などです。

4位は箱根にある富士屋ホテルの『THE

「ビジュアルをメインに歴史を箱根と建築に分けているのは、分かりやすく感じました。コンパクトなサイズも良いと思います。シリーズのような刊行もおもしろいと思います。」「創業140年ということで、古くて貴重な写真がたくさん掲載されていて面白かった。時代の変化、生活の変化、人が何を求めているのか、その変化に合わせて柔軟に対応し、成長してきた様が簡潔によくまとめられていると感じた。写真でみているだけでなく、実際に泊まって建物の細部に至る美しさをじっくり観察してみたいと思った。」など。

「第1巻箱根編」「第2巻建築編」に分けて刊行されています。このシリーズは、まだまだ続きます。

5位は神奈川県鉄道の鉄道グループ・相模鉄道『100YEARS AT SOTETSU』。「手の平サイズでコンパクト。カラー写真が多く、年代順に簡潔にまとめてあって見やすかった。表紙もシンプルでありながら美しさと高級感があり素敵だと思った。」「社史を全てPDFにしているところ。これからは、このような電子書籍的な社史が中心になるのかとも思いました。」などのコメントがありま

した。

写真集のようなコンパクトな冊子に付属のDVD・ROM付き。DVD・ROMに396頁からなる100年史がPDFで収録されています。

順位付けを目的にした投票ではないので、順位の発表はここまでにしておきます。以下、投票用紙に書かれたコメントを順不同にご紹介します。



まずは、正統派の「これぞ社史」という重厚感ある社史から。

ベアリングメーカーの日本精工が100周年を記念して刊行した『日本精工100年史』。843頁の本編に加え、248頁の資料編と映像編DVD付き。「800頁を超える1冊のラストに、『編纂を終えて』のコーナー5ページを記している。編纂にあたり、他社の経験者を訪ねたりしたご苦労を知ることができ、『これから社史を編纂される方へ』は、口語調でやさしく、勇気をくれた。」

— 真っ赤な表紙が印象的です。第33回



の社史編纂サポートセミナーで、お話しいただく予定です。

『ニコン100年史』は、正史757頁、資料編261頁。「正史は写真が多用されていて、設計図やグラフ、手書きの報告書まで、ビジュアル的にも内容的にも充実と変化に富んでいて素晴らしい。資料編もとても詳細で、あらゆる事業記録や変遷がもれなく網羅されており、正史とあわせて非常に完成度が高いと感じた。」

『東レ90年史』は、680頁に付属資料のDVD付き。「大きな厚い本となっていますが、東レの歩んだ過去90年が、日本の社会・歴史の中でどう位置づけられるのか、社会の変遷がよく理解できる社史のように思います。」「表紙の触り心地のよさを思い出してうっとりしていました。」

— 自社素材のウルトラスエードを使用した表紙は、ずっと触っていたくなるような気持ちいい手触りでした。

おなじみの商品を扱っている企業の社史にも、票がはまりました。

小林製菓の100年史『小林製菓100期記念誌 あったらしいなをカタチにする』：「いつも自分が使っている商品の作

り手の写真などが見られて嬉しい気持ちになった。途中にマンガが入っていたり、カラフルだったり工夫が沢山見られました。」「会社にとっての一大事を、社員の視点でマンガにしていたのが共感できた。」

『森永乳業100年史』：「長い歴史をうまく商品とからめて語ってあって、わかりやすくできていました。」「森永ひ素ミルク中毒事件への明確な当事者意識と品質安全への決意が、事実の記載を中心につづられている。また、阪神淡路、東日本震災等の時の記録も、ビジュアルを交えて記録してある。」

『LOTTE BRAND HISTORY 「お口の恋人」70年の歩み』：「テーマステージ、ブランドステージ、ヒストリーステージの構成でカラー写真が満載。商品パッケージ等を見ながら単純に楽しめる。」「本社ビルをグリーンガムとクールミントガムでラッピングした写真は圧巻でした。」

大阪にある綿棒・綿球の製造メーカー・山洋の『株式会社山洋50年の歩み』：「綿棒の歴史が奥深く、ついつい読ん

(3面から続く)

でしまう。いろんな綿棒を使い分けしてみたくなりま  
した。」

—現在の爪楊枝は、爪楊枝の頭にデザインを施した  
「こけし楊枝」が主流ですが、このデザインは、山洋  
の創業者の開発によるものだそうです。

●  
横浜にある印刷会社・野毛印刷の『野毛印刷70年に  
まつわる70のひと・もの・こと』：「人、技術、会社  
の歴史についてショートストーリーと写真でわかりや  
すくまとめている。その出来事を70という数字にまと  
め、最後は未来像を語っており、本として完成度が高い  
と思う。」

三浦市にある京急グループの水族館の『京急油壺マリ  
ンパーク50年史』：「水族館の年史は読んだことがな  
かったが、歴史だけでなく研究についても詳しく記載さ  
れており、その方面の資料としても参考になるのでは、  
と思いました。」「可愛い数々の写真と、奮闘記に心をう  
たれました。」

—神奈川県民には、小学校の遠足で行くおなじみの水  
族館なので親近感を感じた方も多いようです。

東日本関東支社管内の高速道路の維持修繕を行って  
いるNEXCOの『次の十年もさらなる+（プラス）を』  
：「十を+（プラス）にかけるというアイデアと、次の  
十年に向けて、より良く向上していこうという前向きな  
メッセージが伝わってくる社史でした。事業所のページ

では、それぞれ何をプラスしてきたのかというテーマが分  
かりやすく、途中に差しはさまれる動物とのエピソードも  
素敵でした。」

化学メーカー・東ソーの『東ソー80年史 本編』：『社  
史といえど晴れやかな記載が多いが：半分にあたる40  
年はネガティブファクターに見舞われた』（あとがき）。ど  
んな社史かと興味を持ったが、経営や製品事業にバランス  
よくテーマを配し、文も読みやすい。単に見開き完結とい  
うレイアウト上のみやすさを狙っただけでなく内容も充  
実していると思った。」

燃料を中心とした事業を展開している株式会社トキワ  
の『The History of Tokiwa トキワ100年史』：「歴  
史をきっちりわかりやすく整理し、ほぼ全面濃いベタ基調  
に白ヌキ文字という大胆なレイアウトもとても読みやす  
い。歴史を整理するだけでなく、今と、これからの社員参  
加型で行っているのがとても素晴らしい。」

名古屋で主にIT関連事業を行っているメルコホール  
ディングスの『技術伝承ブック メルコグループ四十年の  
技術』第3巻から5巻：「社史の中ではページを割かれる  
ことのない、技術開発の苦労話を当時のPCの販売動向や  
ユーザーの要求を把握しながら記述しており、とても面白  
く読めた。」

●  
いかがでしょうか。紙面の都合もあり、ご紹介できな  
かったコメントも多数あります。ぜひ、当館でお気に入りの  
社史を探してみてください。

(企画情報課・稲木)

●お問い合わせ先 神奈川県立川崎図書館 企画情報課

213-0012 川崎市高津区坂戸 3-2-1 かながわサイエンスパーク 西棟 2F

電話：044-299-7826 FAX：044-322-8878

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>